【コラム６】〈中山間地域を支える「学生」〉

中山間地域で、集落の在り方や伝統文化について調査･活動している「学生」をご存じですか？

この「学生」の活動は、少子化･高齢化が進む中山間地域において、地域資源をいかした関係人口の創出や文化継承などに寄与しています。今回は、静岡文化芸術大学と中山間地域の関わりの一部をご紹介します。

◎ 他出子（地縁者や血縁者)の実態調査

⇒学生が引佐町や佐久間町で、集落の住民と他出子※との地域づくりの在り方を調査しています。少子化･高齢化が進む集落の中で、農作業や祭事時など、週末に地元に戻り地域を支える他出子が、今後の集落機能を維持する「鍵」であることがわかりました。

※他出子：集落から転出（転居）したこども

◎久留女木の棚田での米づくり

⇒学生有志で結成された「引佐耕作隊」が棚田内の耕作放棄地で、一年を通して米作りに取り組んでいます。また、収穫した棚田米を販売することで、都市部の方に棚田の魅力を伝えています。棚田米の収益は棚田の保全費や活動費に充てており、地域から離れて暮らす人々が棚田米の購入を通して棚田の保全に関われる仕組みにもなっています。

◎北遠の伝説や昔話の継承

⇒地域や家庭で語り継がれてきた伝説や昔話を地域住民から直接聴き取って「方言のまま」「語り口のまま」にとりまとめ、書籍として刊行しています。これまで書籍化された冊数は10冊。伝説や昔話などの「伝統文化」が失われないよう、民間口承文化財（民話）として保存･継承する活動に取り組んでいます。

他出子調査の様子
（天竜区佐久間町）

棚田での農作業の様子
（浜名区引佐町）

民話調査の様子
（天竜区熊）